

「和解の務め」音信 (17 - 5 号)

Ministry of Reconciliation in South Africa

これらのことはすべて、神から出ているのです。
神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、
また和解の務めを私たちに与えてくださいました

(II コリント 5:18)



先ず、三位一体の神様の恵みと平安が皆様に豊かに臨まれるようお祈りします。今年の宣教奉仕ニュース第 5 号をお送りいたします。

聖書研究集まりへの参加

出席している教会の長老の一人であり、ステレンボッシュ大学工学部の教授でもあるマールテン・カンパー氏 (Prof. Dr. Maarten Kamper) の事務所でお昼の時間を活用して聖書研究が行われていました。以前から参加を呼びかけられましたが、9 月 11 日に行ってみることができました。私たちが参加した時は、留学生 3 人、カンパー教授、そして私



聖書研究の様子

たち夫婦二人で聖書研究が行われましたが、普通は学生 5~7 人が来るそうです。聖書研究とは、与えられた聖書箇所を読んで、皆が順番にその箇所から教えられたこと、感じ取られたことを述べて、そして最後に教授がまとめてコメントをする、その後、祈りの時間を持つという形でした。短い 1 時間ほどの聖書研究でしたが、とても有意義な時間でした。学生たちが去った後、彼はこの大学に、少なくとも工学部に神の国が実現することをずっと祈っているとの話聞いて、驚きと共に嬉しさも感じました。このような信仰ある教授が沢山増えることを祈りたい気持ちをもって帰って来ました。

「和解の宣教集会」の開設礼拝

お祈りして頂いた和解の宣教集会開設礼拝がいよいよ 9 月 25 日(月)に行われました。丁度、朝岡勝先生が宣教視察に来られる時に合わせて、その日にすることを決めたのです。70 人ぐらいの人々が集まり、集会 (言えば、教会) の船出を神様に感謝し、新たに教会の宣教的使命について再確認し、決心する時を持ちました。一部の礼拝、2 部の昼食、3 部の記



開設礼拝の時 朝岡師

念講演という形で進められましたが、朝岡先生が英語でメッセージと講演をしてくださり、世界の中での日本、日本のキリスト教の世界化を考えさせられる、とっても素敵な機会を持ちました。足立愛の教会、曹(チヨウ)先生から送られたプラカードを教会前面に掛けましたが、主任牧師のヨハン・ファン・ヘイニンハン先生 (Dominee Johann van Heyningen) は、それが大変気に入り、それを3週間掛けることを提案しました。設立50周年になるステレンボシュ改革派教会の記念すべきことで教会記念誌にも今度の出来事を載せるということでした。

宣教地域の探訪

折角、国外宣教委員長の朝岡先生が来られましたので、一緒にもう一度アフリカの地を宣教的な観点から見る時を持ちました。簡単に日程を略述しますと、

9月21日：ご到着、

- 22日：ステレンボシュのマーダチャーチ (mother church) と言われるステレンボシュ・オランダ・改革派教会を始め、神学校、大学の見学、
- 23日：フランスのユグノたちの定着地・フランシュック (Franshoek) 訪問、現地人モルネ・フレデリック氏 (Mr. Morne Frederick) の家の訪問、
- 24日：主日礼拝参加とクラブムツ (Klaphmuts) 貧民村訪問、日本人の婦人がオーナーであるワイナリとそのレストラン訪問、
- 25日：開設礼拝と記念講演、
- 26日：ケープタウンのテーブル・マウンティンの見学、
- 27日：ブスターのクリスチャン・アカデミと YWAM センターへの訪問、アンドリュー・マレー師が牧会したブスター・オランダ改革派教会訪問、そしてパウロ宣教会の信徒・女性宣教師のハー婦人 (Mrs. Hah) のローソンビル (Rawsonville) の家庭集会、J.P.氏農場の子供施設と活動見学、パール (Paarl) のパール聖書学校 (Pearl Bible School) の建物見物。
- 28日：ご出発。考えてみますと、誠にきつい、スケジュールでした。



パール聖書学校

自分自身もアフリカ地の宣教の可能性と潜在力をもう一度、確認する時でした。

家内の健康異常の発見

その最中で予想しなかった問題が発生しました。それは家内・朴夫人の健康上の異常です。2, 3年前から若干右の指が震えることがありましたが、別に異常とは思いませんでした。しかし、この頃、それがもう少し頻繁に震えるので、針を打って貰えば治めると思いました。知り合いから紹介されて中国の漢医者を探したら、その医者は多分パーキンソン氏病の初期かも知らないということで針の後、漢方薬を調製してくれました。それを飲んだ後、家内に大変なことが起こりました。まず良く眠れないこと、食欲がなくなり、消化ができなくなったこと、体が急に寒くなったりすること、今までなかった異常が起こりましたが、治るための課程かと思いました。開設礼拝の前だったので、早速、薬を止めて先ず正確な診察のために一時帰国を考えることになりました。すべての日程の後、委員長の朝岡先生に相談しましたら、快く受け入れ、一時帰国を承諾してくださいました。10月17日羽田空港に着き、速やかに診察に取り掛かるつもりです。自分は11月17日に南アフリカに戻る計画ですが、家内は治療のためにもう少し滞在した後、再び帰って来る予定です。皆様の執成しのお祈りを心よりお願い申し上げます。

祈りの課題

祈りの課題を申し上げます。

1. 「和解の宣教集会」がステレンボシュ大学やその周辺に住んでいる多くの学生、青年たちの救いと訓練、宣教動員に用いられるように。
2. 南アフリカの教会と信徒がアフリカと世界宣教に目を大きく開き、それらに積極的に取り組めるように。
3. 家内の健康異常の理由を正確に知り、適切な処方を受け、速やかに健康を回復して任地に戻ることができるように。

最後に、皆様に三位一体の神様からの恵みと平安が豊かにありますようにお祈りいたします。マラナーター！

南アフリカ・ステレンボシュにて

金煥・朴貞玉より
